

5 万分の 1 地質図幅の新刊

国 縫
KUNNUI

5 万分の 1 地質図幅地域地質研究報告

著 者 石田 正夫
発 行 工業技術院 地質調査所
取 扱 先 東京地学協会
そのほか全国主要書店
販売価格 1.510円

国縫地域は蟹を名物とする長万部町の南部に位置し太平洋側の内浦湾（噴火湾）に面している。内浦湾西岸は 江差追分の民謡で知られる日本海側の江差地域とともに海岸段丘が発達する。

本地域の地質は 東北日本弧内帯のいわゆるグリンタフ地域の北方延長部に当たり 古生代後期から中生代前期にかけての堆積岩類と これに進入する白亜紀の花崗岩類を基盤として 新第三紀中新世以降の堆積岩及び火山岩が広く分布する。 基盤岩類は西隣今金図幅及び北隣長万部図幅地域に露出するが 本地域ではすべて新第三系に覆われている。 新第三系は 下位から訓縫層・八雲層・黒松内層及び瀬棚層とに分けられる。

新第三系最下部の訓縫層は 主として緑色凝灰岩及び火山角礫岩などの火砕岩からなり 安山岩溶岩・砂岩及び泥岩を伴い 本地域が西南北海道新第三系層序の訓縫層の模式地である。

八雲層は 主として硬質頁岩とシルト岩との互層であるが 黒岩地域では火山角礫岩や凝灰角礫岩が卓越する。

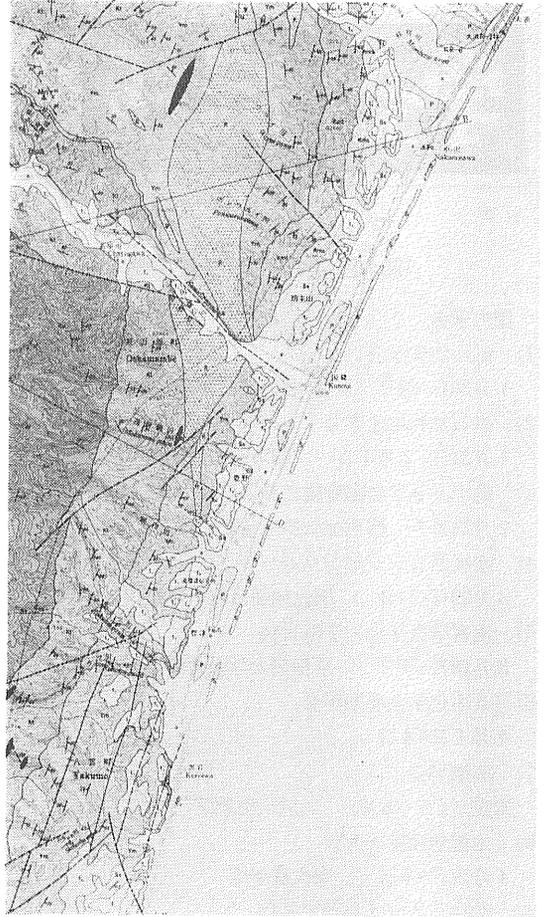
訓縫層及び八雲層を貫いて 流紋岩・安山岩・ドレライトが分布し なかでも流紋岩が大規模な岩体を形成している。

黒松内層は八雲層から漸移し 一般にシルト岩及び砂岩からなるが 下部には火砕岩が多く含まれる。

瀬棚層は下位の地層を不整合に覆い 砂岩・礫岩など粗粒堆積物によって構成され 浅海性の環境を示す二枚貝及び巻貝からなる瀬棚動物化石群を産する。

本地域の地質構造は 遊楽部岳図幅から今金図幅にかけてほぼ南北性の軸をもつ遊楽部背斜の東翼部に当たるため 黒岩地域の小規模な褶曲を除き 全体的に各層とも東方へ傾斜する。

長万部から国縫・八雲に至る海岸線の平野部は 古くから日本有数の砂鉄鉱床賦存地域として知られ 多量の



砂鉄が採掘されてきた。 なかでも昭和26年から40年頃には鉄鉱石の需要が急増し 約400万トンの生産実績をあげている。 しかし その後の経済事情により減少の一途をたどり 現在は採掘されていない。

本地域は新第三系中新統の中・上部を占める地層が標式的に発達し 既刊の八雲・遊楽部岳図幅を合せ 巡検コースの設定には非常に好適である。

地質ニュース	第353号	1月号
	定価 ¥540	千実費
昭和59年1月1日	発行	
編集	工業技術院地質調査所	
発行人	林 久 雄	
発行所	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	Tel. (03) 265-0951 (代表)	
	振替口座 東京 1-32466	
総発売元	株式会社 実業公報社	
	出版事業部	